

趣旨説明

日本学術会議公開シンポジウム

「免震・制振データ改ざんの背景と信頼回復への道筋」

土木工学・建築学委員会委員長 米田雅子

本日は数多くの皆様にお集まり頂き、誠にありがとうございます。

昨年10月16日オイルダンパーの出荷検査データの改ざんが発覚しました。明日でちょうど3ヶ月になります。振り返れば、2015年3月に発覚した免震積層ゴムのデータ改ざんとともに、これらの問題は、建設業のみならず、市民や社会に大きな衝撃を与えました。免震・制振装置は構造物の中に組み込まれているため、再検査や取り替えは容易ではありません。不安な気持ちで毎日を過ごしておられる入居者の方も多いと思います。今日は、この問題にどう対処すべきかについて、皆様と考えたいと思います。

日本は地震の多い国です。世界に先駆けて日本で開発された免震や制振の信頼性が揺らいでいます。安全な構造物を造るためには、免震や制振の性能を担保することが重要です。これまで装置の性能確認を製造会社の自主検査に任せてきたことが、データ改ざんの背景にあります。今後、品質管理について徹底した調査を行い、再発防止策を講じなければなりません。

本シンポジウムでは、原因を知り、対策を考えるため、免震・制振を用いた建物の認定の現状、検査データの改ざんと免震・制振の地震時応答、免震ゴムの取り替え工事、オイルダンパーの取り替え工事の状況、橋梁における性能保証の現状、実大実験を巡る国内外の状況などについて各分野の第一人者から発表して頂きます。

さらに、和田章先生から「信頼回復への一つの提案」を発表して頂きます。出荷される免震・制振装置が十分な品質を確保していることを検証するためには、第三者による抜き取り検査体制や本格的な実験設備を備えた検査機関の設置が一つの糸口になると思われます。この提案に関して、会場の皆様と真剣な議論を行い、信頼回復のための道筋を見出していきたくて願っています。

検査データ改ざんの問題は、建設業だけでなく、日本のクルマ産業、製造業にも広がっています。そこには技術者倫理や人材育成の問題、ビジネスにおける厳しい納期とコスト削減への圧力、品質より利益を優先する姿勢など、長期にわたり、社会全体、学術全体で取り組むべき課題があります。

この度のシンポジウムは、このような長期的な問題も踏まえながら、短期的に、今、どう対応すべきかに焦点を当てて、具体的に考えていきたいと思えます。

現在、データ改ざんされた免震・制振装置が入った建物に住んでいる方、仕事している方にとって、具体的な対策はまったなしです。建物や橋梁を建設中の方にとって、安全な免震・制振装置の供給はまったなしです。

日本学術会議土木工学・建築学委員会としては、本日の議論をもとに、提言を出せればと考えております。お手元にはアンケート用紙も準備しました。

皆様の積極的なご参加を期待しています。

それではシンポジウムを始めたいと思えます。